プレスリリース

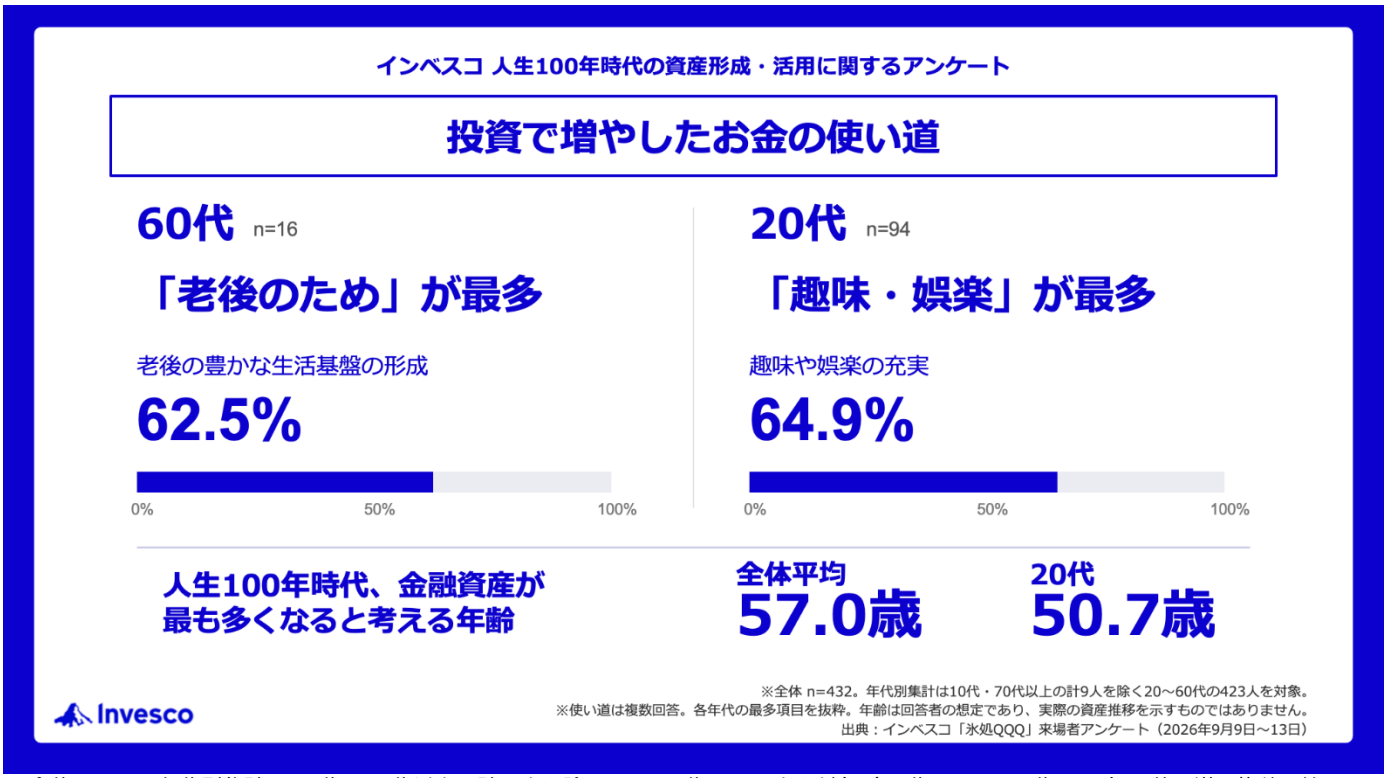
2026 年 11 月 12 日
インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

【資産運用会社インベスコ】
投資で増やしたお金の使い道に関するアンケートを実施。
60 代は「老後のため」、20 代は「趣味・娯楽」が最多
― 人生 100 年時代、金融資産のピークは平均 57 歳、20 代では 50 代前半と想定 ―

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（代表取締役社長 兼 CEO：佐藤秀樹、所在地：東京都港区、以下「インベスコ」）は、2026 年 9 月 9 日～13 日に開催した投資体験イベント「氷処 QQQ by Invesco QQQ」の来場者 432 人を対象に、資産運用で増やしたお金の使い道や、“人生 100 年時代”において、自身の金融資産が最も多くなると考える年齢についてのアンケートを実施しました。

厚生労働省の 2026 年 9 月の発表によると、100 歳以上の高齢者数は初めて 10 万人を超え、10 万 7,677 人に達しました※1。“人生 100 年時代”が本格化するなか、長い人生を見据えた計画的な資産形成・活用への関心が高まっています。

今回のアンケートでは、資産運用で増やしたお金の使い道として、60 代は「老後の豊かな生活基盤の形成」、20 代は「趣味や娯楽の充実」が最多となり、増やしたお金で実現したいことに世代ごとの違いが見られました。



※全体 n=432。年代別集計は 10 代・70 代以上の計 9 人を除く 20～60 代の 423 人を対象（60 代 n=16、20 代 n=94）。使い道は複数回答で、各年代の最多項目を抜粋。金融資産が最も多くなる年齢は回答者の想定であり、実際の資産推移を示すものではありません。

11 月 14 日の「いい投資の日」に合わせ、人生 100 年時代における「資産を増やす時期」と「使う目的」について、年代ごとのアンケート結果を紹介します。

※1 出典：厚生労働省発表（https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/newpage_002341.html）

＜アンケート結果サマリー＞

1.投資で増やしたお金の使い道は、60 代は「老後のため」、20 代は「趣味や娯楽の充実」が最多

60 代ではその先の長い暮らしへの備え、20 代では趣味や娯楽を通じた生活の充実が重視され、増やしたお金で実現したいことに世代ごとの違いが見られました。

2.日常生活や資産運用で「今」と「将来・未来」のどちらを重視するかでは、20～50 代は「将来・未来」、60 代は「今」が多数

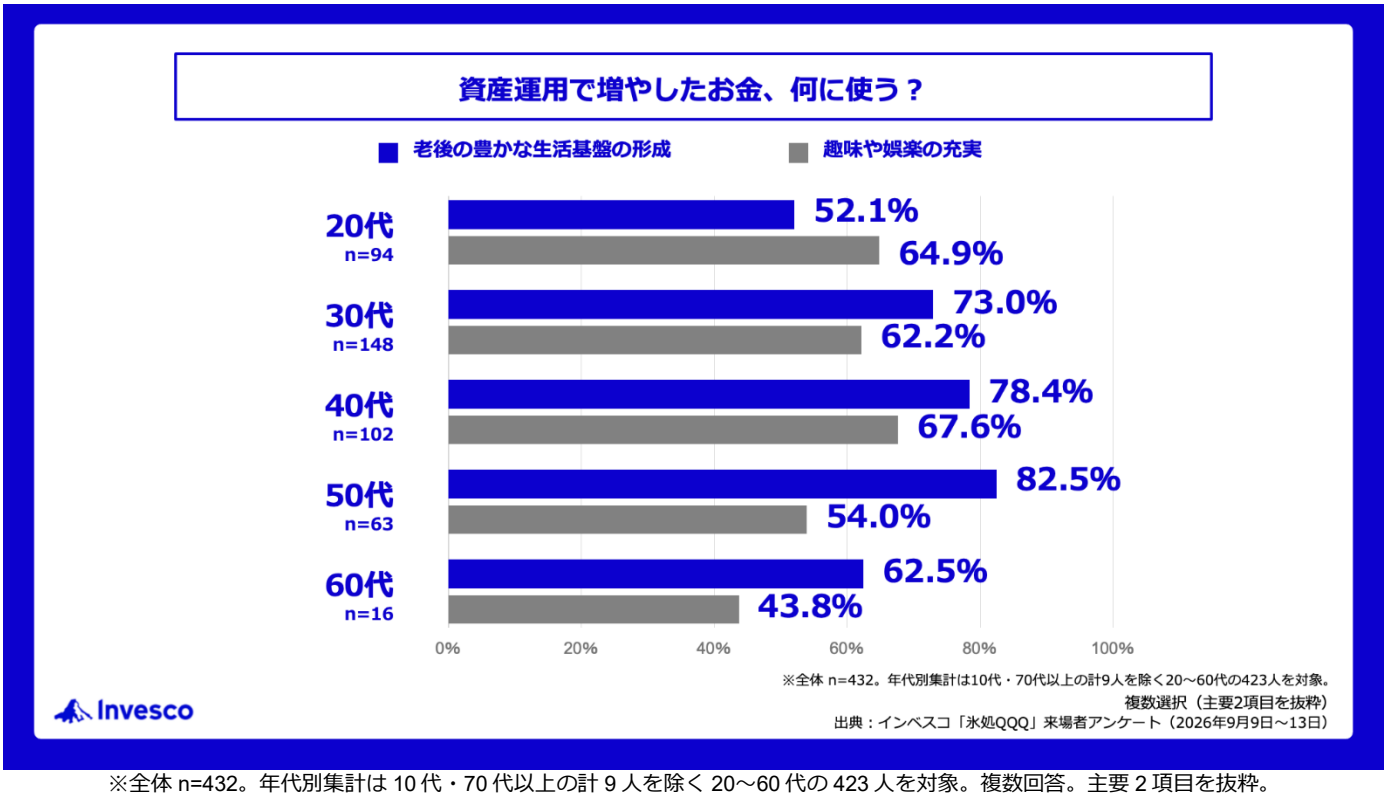
使い道とは別に、日常生活や資産運用で重視する時間軸を尋ねたところ、20～50 代では「将来・未来」、60 代では「今」を選ぶ回答が過半数を占めました。

3.人生 100 年時代、金融資産が最も多くなると考える年齢は平均 57 歳

30～60 代が概ね 60 歳前後を想定しているのに対し、20 代は 50 代前半と、他の年代よりも早い時期を想定していました。

＜アンケートレポート＞

1.投資で増やしたお金の使い道は、60 代は「老後のため」、20 代は「趣味や娯楽の充実」が最多



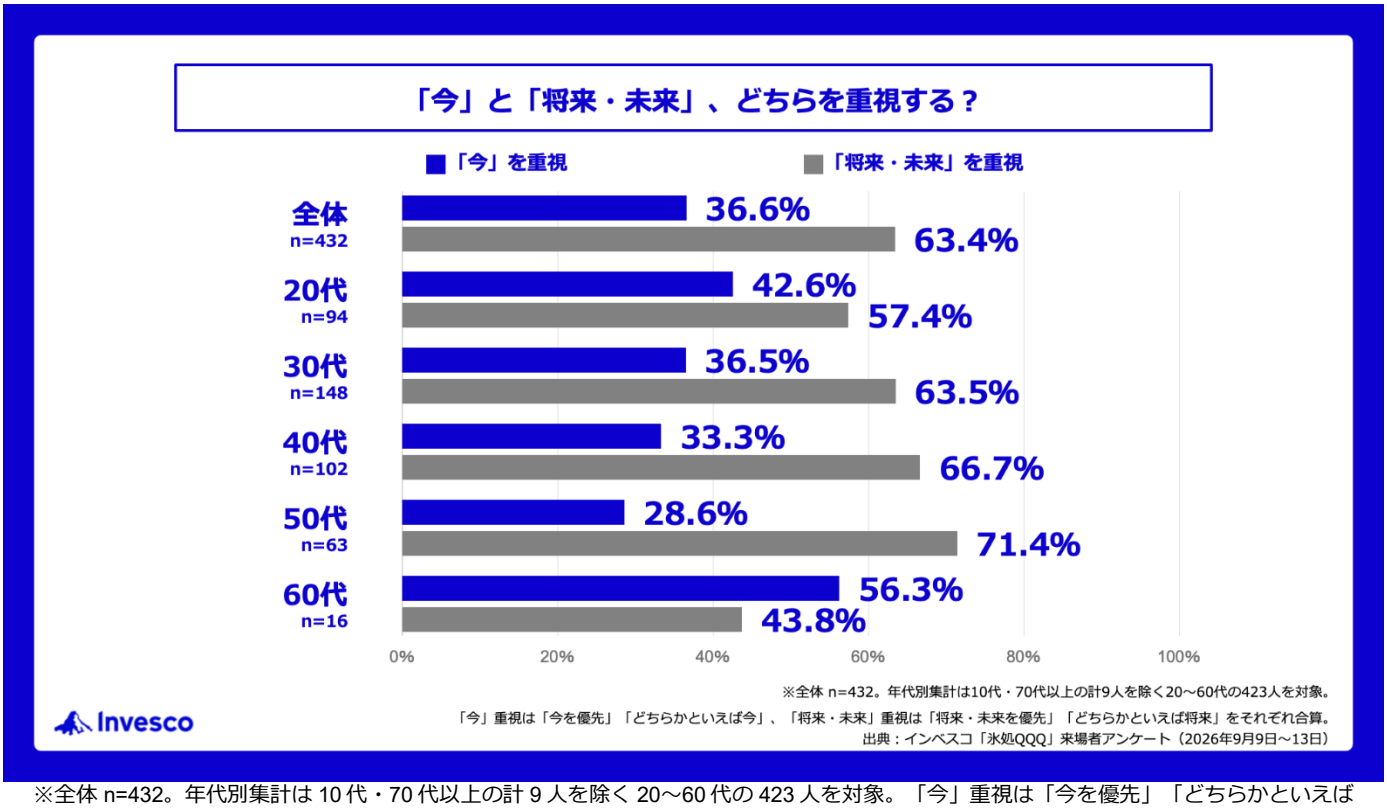
※全体 n=432。年代別集計は 10 代・70 代以上の計 9 人を除く 20～60 代の 423 人を対象。複数回答。主要 2 項目を抜粋。

資産運用で増やした、または今後増やしたいお金の主な使い道（複数回答）を尋ねたところ、全体で「老後の豊かな生活基盤の形成」（70.8%）が最多となり、「趣味や娯楽の充実」と「予期せぬリスクへの備え」（各 62.0%）が続きました。

年代別では、30～60 代で「老後の豊かな生活基盤の形成」が最多となっています。回答割合は 50 代で 82.5%と最も高く、60 代でも 62.5%でした。

一方、20 代では「趣味や娯楽の充実」（64.9%）が「老後の豊かな生活基盤の形成」（52.1%）を 12.8 ポイント上回り最多となりました。趣味・娯楽が老後への備えを上回ったのは、比較対象の 20～60 代で 20 代のみであり、旅行や推し活などの趣味・娯楽に運用成果を活用したい意向がうかがえます。

2.日常生活や資産運用で「今」と「将来・未来」のどちらを重視するかでは、20～50 代は「将来・未来」、60 代は「今」が多数



※全体 n=432。年代別集計は 10 代・70 代以上の計 9 人を除く 20～60 代の 423 人を対象。「今」重視は「今を優先」「どちらかといえば今」、「将来・未来」重視は「将来・未来を優先」「どちらかといえば将来」をそれぞれ合算。

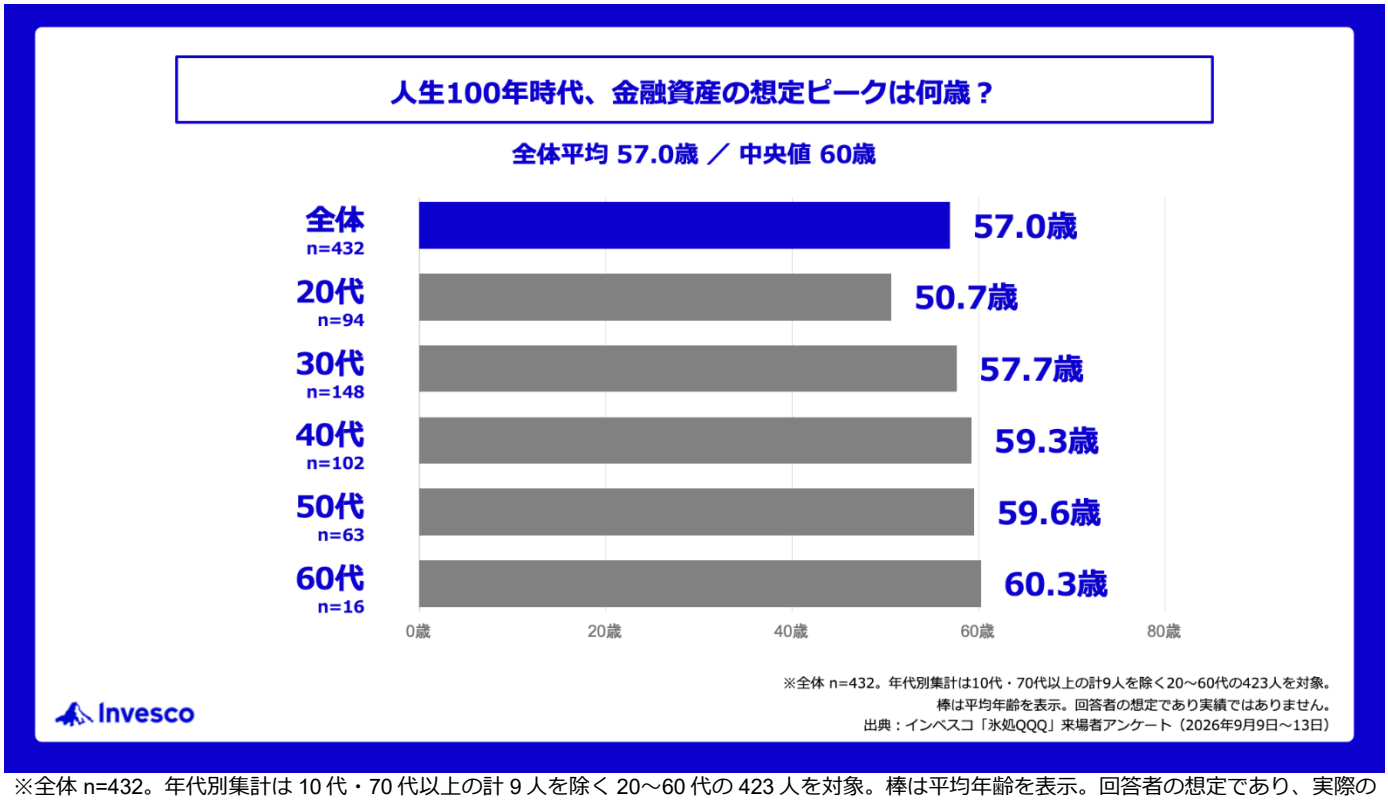
一方、お金の使い道とは別に、日常生活や資産運用において「今」と「将来・未来」のどちらに重きを置くかを尋ねたところ（「どちらかといえば」を含む）、全体では「将来・未来」重視が 63.4%となり、「今」重視（36.6%）を上回りました。

年代別では、「将来・未来」重視の割合は 20 代の 57.4%から年代が上がるにつれて高まり、50 代では 71.4%に達するなど、20～50 代で一貫して過半数を占める一方、60 代では「今」重視（56.3%）が「将来・未来」重視（43.8%）を上回り、シニア層では「今」を重んじる傾向が見られます。

使い道として「趣味や娯楽の充実」が最多となった 20 代でも、日常生活や資産運用では「将来・未来」を重視する回答が過半数を占めました。また、60 代は「今」を重視する回答が過半数を占める一方、増

やしたお金の使い道では「老後の豊かな生活基盤の形成」が最多でした。お金を「何に使いたいか」と、日常生活や資産運用で「どの時間軸を重視するか」では、異なる傾向が見られます。

3. 人生 100 年時代、金融資産が最も多くなると考える年齢は平均 57 歳。20 代は 50.7 歳と、他の年代より早い時期を想定



※全体 n=432。年代別集計は 10 代・70 代以上の計 9 人を除く 20～60 代の 423 人を対象。棒は平均年齢を表示。回答者の想定であり、実際の資産推移を示すものではありません。

人生 100 年時代において、自身の金融資産が何歳のときに最も多くなると考えるかを尋ねたところ※2、回答の平均は 57 歳、中央値は 60 歳でした。

年代別の平均は 20 代の 50.7 歳から年代順に上がり、60 代では 60.3 歳となりました。最多回答の年齢帯は、30～50 代が「60～69 歳」、20 代が「50～59 歳」です。

長寿化を前提としても、回答者の意識としては 50 代後半で資産がピークに達すると考えていることが分かります。特に 20 代では平均 50.7 歳と、他の年代よりも早い時期を想定していることが分かりました。

20 代の回答者が他の年代よりも早い時期を想定している背景には、いくつかの可能性が挙げられます。例えば、遠い将来の生活や資産状況を具体的にイメージしにくいことや、回答者の一部において早期リタイアを意識したライフプランが影響している可能性などが考えられます※3。

また、近年の物価上昇や将来の収入・雇用の見通しに対する不安といった社会的な懸念も、生活設計や引退時期の選択への意識に影響を与えている可能性があります。

※2 「この年齢以降は貯蓄・投資より取り崩し額が多くなる」という想定に基づく回答であり、実際の資産推移を示すものではありません。
※3 本調査では回答理由を尋ねていないため、上記の内容は未検証の解釈や仮説であり、背景にある要因や因果関係は確認されていません。

インベスコ・アセット・マネジメント
取締役 リテール営業本部長 飯森 かおり コメント



人生 100 年時代には、資産を増やすことに加え、その後の長い暮らしにどう活用するかを考える視点が重要です。今回の調査で特に印象的だったのは、20 代が、自身の金融資産が最も多くなる年齢を 50 代前半と、他の年代より早い時期に想定している点です。人生 100 年時代には、資産を増やすことだけでなく、**いつまで増やし、その資産をいつ、何のために使うのかまで含めて考えること**が、これまで以上に大切になってくるのではないでしょうか。近く使う予定の資金と長期的に運用する資金を分け、目的や使う時期に合った運用を考えることが、現在の生活の充実と将来への選択肢の拡大の両立につながります。私たち運用会社も、商品や運用成果の提供にとどまらず、こうした資産形成・活用の考え方を分かりやすくお伝えしていきたいと考えています。

アンケート概要

・アンケート方法：来場者アンケート
・アンケート対象：「氷処 QQQ by Invesco QQQ」来場者 432 人
・年代別集計：10 代・70 代以上の計 9 人を除く 20～60 代の 423 人（20 代 94 人／30 代 148 人／40 代 102 人／50 代 63 人／60 代 16 人）
・回答期間：2026 年 9 月 9 日～9 月 13 日
※本アンケートはイベント来場者の回答を集計したものであり、日本人全体の傾向を示すものではありません。

インベスコについて

インベスコ・リミテッド（以下、「インベスコ」）は、世界 120 カ国以上でグローバルな運用力を提供する世界有数の資産運用会社です。公開市場およびプライベート市場、アクティブ運用およびパッシブ運用にわたる幅広い投資ソリューションとグローバルな運用力を活かし、世界中の個人投資家・機関投資家の皆様が直面する課題を新たな可能性へと転換し、未来をともに変える選択ができるよう支援しています。インベスコは米国アトランタにグループ本社を構え、ニューヨーク証券取引所に上場し、S&P500 指数の構成銘柄となっています。（証券コード：IVZ）。インベスコに関する詳しい情報は、ウェブサイト（英語）で入手することができます。https://www.invesco.com/corporate/en/home.html

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社について

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社は、グローバルな運用力を提供する世界有数の独立系資産運用会社インベスコの日本拠点です。インベスコ・アセット・マネジメント株式会社は、内外の公的年金・企業年金、事業法人、銀行や保険会社など機関投資家を対象に、株式や債券などの伝統的な投資戦略からオルタナティブなど非伝統的な投資戦略まで幅広い商品およびサービスを提供しています。また、銀行・証券会社・保険会社などを通じて個人投資家向けの投資信託およびサービスを提供しています。インベスコ・アセット・マネジメント株式会社に関する詳しい情報は、ウェブサイトで入手することができます。https://www.invesco.com/jp/ja/

留意事項
当資料はインベスコ・アセット・マネジメント株式会社が行った調査の結果についてお伝えすることのみを目的として作成したプレスリリースであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できる情報 に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。投資信託 は、主として国内外の株式や公社債などの値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないた め、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動などにより投資一単位当たりの価値が変動しま す。したがって、お客さま

のご投資された金額を下回ることもあります。投資信託財産に生じた利益および損失 は、すべて受益者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。また、投資信託は、個別の投資信託ごと に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国などが異なることから、リスクの内容や性質が異 なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面をよくご覧いただき内容・リスクを十分ご理 解のうえ、ご自身でご判断ください。また、ETF は預貯金と異なり、市況変動等により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、ファンドの運用による損益はすべて受益者に帰属します。したがって、投資家の投資元本が保証されているものではありません。ご投資される際は、必ず取扱い金融商品取引業者にて上場有価証券等書又はその他の開示書面の内容をよくご確認の上、ご自身でご判断ください。

【上場投資信託（ETF）への投資にかかる手数料等およびリスクについて】
【投資リスク】
ETF は預貯金と異なり、市況変動等により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、ファンドの運用による損益はすべて受益者に帰属します。したがって、投資家の投資元本が保証されているものではありません。ETF は、主に株式など値動きのある有価証券に投資を行います。有価証券への投資には、価格変動リスク、カントリーリスク、信用リスク、為替リスク、流動性リスク等、様々なリスクがあり、ETF も同様のリスクが伴います。組み入れ銘柄の価格等の変動並びに ETF の取引通貨や現地通貨の為替変動の影響により当該 ETF の円貨換算の取引価格または基準価額が変動し、下落した場合は、損失を被ることがあります。
ETF は、ベンチマークとの乖離や、市場価格と一口あたりの純資産額との乖離が生じる可能性があります。また、ETF には上場廃止となるリスクがあります。これらは主なリスクであり、ETF への投資に係るリスクはこれらに限定されるものではありません。
【その他の留意事項】
ご紹介している ETF は、当社のグループ会社が設定・運用等を行うものであり、当社においてはお客さまに金融商品取引の執行に係るサービスは行っておりません。売買をお申込みになる金融商品取引業者に当該取引の内容についてご確認ください。
【手数料等】
ETF にご投資いただく際には、取扱い金融商品取引業者（証券会社）の定める手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。詳しくは取扱い金融商品取引業者までお問い合わせください。
＜売買時の手数料＞
ETF を売買する際の手数料は取扱い金融商品取引業者によって定められています。また、海外の取引所に上場する ETF の場合、売買時の手数料の他に、為替の取引や外国金融商品市場等における費用等が別途発生することがあり、これらの費用等はお客さまのご負担となります。詳しくは取扱い金融商品取引業者までお問い合わせください。
＜保有時の費用＞
ETF の保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。これらの費用には、運用会社・管理会社に支払う報酬、組入れ資産の売買の際に発生する手数料、ライセンス・フィー、監査費用等があります。インベスコ QQQ の総経費率は、日々の投資信託財産の平均純資産総額の 0.18%に相当します。詳しくは取扱い金融商品取引業者までお問い合わせください。

本資料の掲載情報は作成時点のものであり、市場の環境その他の状況等により将来予告なく変更されることがあります。

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第 306 号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会、日本証券業協会

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社
〒106-6114　東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号　六本木ヒルズ森タワー　14 階
HP：https://www.invesco.com/jp/

6107745-JP